

令和8年4月27日

横浜市立東希望が丘小学校 学校だより



東希小だより 5月号

「咲こう 輝こう マーガレットのように」

1年生を迎える会にて

校長 栗田 朋子

色鮮やかなつつじの花が、正門を美しく彩っています。入学・進級した子どもたちも、間もなく3週間が経とうとしています。新しい学級にも少しずつ慣れ、緊張がほぐれてきた子どもたちが、友達や先生と楽しそうにふれあう姿が見られるようになりました。

4月21日(火)には、体育館で「1年生を迎える会」を行いました。全校児童が初めて一堂に会しました。1年生を温かく迎えようと、各学年がそれぞれ役割を分担し、この日のために準備を進めてきました。

当日は、音楽に合わせて、1年生が6年生と手をつなぎ、手拍子に合わせて入場しました。これまで6年生は、給食の片付けや牛乳パック開きの手伝いなどを通して、1年生と関わってきました。こうした交流もあってか、1年生は安心した表情で、6年生に手を引かれていました。



3年生代表児童による始めの言葉では、1年生が入学してきて嬉しいと喜びを伝えていました。

5年生の学校紹介〇×クイズでは、1年生だけでなく、全学年の子どもたちが一緒になって楽しみました。東希望が丘小学校の魅力やきまりを上手に問題にしており、正解が発表されるたびに、体育館には大きな歓声が響きました。

2年生からは、本校のキャラクター「トウキノコ」を折り紙で作り、楽しいイラストの描かれた封筒に入れて1年生にプレゼントしました。

また、全校で校歌を歌い、歌のプレゼントもしました。本校児童の歌声はとても美しく、そのハーモニーに1年生は少し驚いた様子でした。この歌声は、これからもきっと受け継がれていくことでしょう。

終わりの言葉では4年生の代表児童が東希小は楽しいことがたくさんあるけれど、困ったときにはお兄さんお姉さんが教えると力強いメッセージが聞かれました。1年生の笑顔と、子どもたちの思いやりの気持ちが、体育館いっぱいにあふれる会となりました。

そもそも本校の「1年生を迎える会」は、新しく学校生活を始めた1年生を、全校で温かく迎え入れるための大切な会です。同時に、下学年を思いやる気持ちを育てる貴重な機会にもなっています。

上級生が1年生の立場に立って行動することで、相手の気持ちを考える力が自然と育まれていきます。優しい言葉かけや手拍子、分かりやすい説明、笑顔での関わりを通して、学校全体に穏やかで温かな雰囲気が広がります。

1年生は、「大切にされている」「ここは安心して過ごせる場所だ」と感じることはできたのではないのでしょうか。こうした経験が、学校への安心感や所属感につながっていくことと思います。本校では、学年を超えた関わりを通して、思いやりや優しさの心を育むことを大切にしています。今後も、地域や保護者の皆様と連携しながら、子どもたち一人一人が「温かく、安心して過ごせる学校」と感じられる学校づくりを進めてまいります。